

2004年度

Block 2 テュートリアル課題

課題番号 5

胸 に 影



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

TWMU Block 2 第一外科学 小山 邦広

影山一郎さんは、タバコが好きでやめられませんでした。普段から、健康には自信がありました。気軽な気持ちで検診を受けたところ、“胸部X線写真にて異常あり、精査が必要”との結果を見て、心配になりました。

胸部X線写真（正常，症例- 正面，側面）：供覧

影山さんは東京女子医科大学病院呼吸器センターを受診しました。担当医から、「レントゲンで、異常な影が認められるので、胸部 CT を施行して、もう少し詳しく調べてみましょう。」と説明されました。

胸部 CT (正常, 症例) : 供覧

さらに、担当医から、「喀痰細胞診では異常な細胞は認めませんが、診断を確定させるため、気管支鏡で、気管支を観察し、細胞を取る検査が必要です。」と説明を受けました。

後日、経気管支肺生検(TBLB)、擦過細胞診を施行（供覧 - 炎症例，症例）しました。

また、他に、頭部 MRI、腹部 CT、骨シンチグラフィを、予約しましたが、影山さんは、「肺の病気なのに、何で、頭や、お腹の検査をしなければならないのだろうか？」と疑問に思いました。

検査結果を聞きに、受診すると、担当医から、「悪い細胞が、認められるので、手術したほうがいいです。」と説明されました。影山さんは、「手術しないで済む方法はないのですか?」と聞きましたが、「化学療法や、放射線治療もありますが、手術でとるのが、最も、確実です。」と説明を受け、手術に同意しました。呼吸器外科に入院後、左肺上葉切除術、リンパ節郭清術が行われました。術後は経過良好で第10病日に退院しました。

摘出病理標本写真(マクロ、顕微鏡写真): 供覧

病理検査の結果は、原発性肺癌でした。主治医からは、「組織学的に、リンパ節に転移しているので、少し進行しています。補助療法も考えています。」と説明されました。